

社会活動報告書

[活動期間 2015.1.1-12.31]



SHIMANO

社会活動報告書 発刊にあたって	3
企業価値の向上を目指して	4
こころ躍る製品を	
シマノ自転車通勤制度	
シマノを支えるひとづくり	
歓びの高揚	8
シマノ・バイカーズフェスティバル	
自転車と暮らしの情報ツール「Cyclingood」	
自転車博物館 サイクルセンター	
SHIMANO Cycling World	
LIFE CREATION SPACE OVE(オーブ)	
シマノレーシング	
その他の活動	
利用環境の改善と保全	14
2015年の植林活動(シンガポール/マレーシア/中国)	
省エネの取り組み	
シマノグリーンプラン	
身近な環境に対する取り組み	
環境負荷低減への取り組み	
信頼の構築	20
地域社会とともに——シマノチェコの活動	
安全で楽しい自転車利用を目指して	
子供たちの教育支援	
企業市民として	
スポンサーシップ	
義援活動	
社会活動報告書を読んで	26
チームシマノ基本理念	27

社会活動報告書 発刊にあたって



「人と自然のふれあいの中で、新しい価値を創造し、健康とよろこびに貢献する」
これは、ものづくり企業として社会におけるシマノの使命であり
1921年の創業以来、変わることなく貫いてきた基本姿勢でもあります。

お蔭さまで、当社は創業100周年まで5年を余すばかりとなりました。
現在の私どもの志や取り組みが、5年後、10年後の成長につながるものと
いま改めて、身の引き締まる思いを抱いております。

日本発の開発型製造業として、多くの人々に感動していただける
「こころ躍る製品」の開発・製造に邁進することはもとより
企業と社会の共有価値を創造し続ける「価値創造企業」として
一步一步、前進していくことが大切だと考えます。

今回の報告書表紙には、コーポレートロゴタイプ SHIMANO とともに
かつて使用していた3色ラインを復活させ、デザインしました。
ライトグリーンは緑豊かな大地を、ブルーは澄みわたる大空を
そしてディープブルーはどこまでも広がる大海原を表しています。

この3色ラインを、当社の社会活動・文化創造活動のシンボルとして
人と自然のより深い調和に心血を注いでいきたいと思っております。

そしてこれからも、知識集約的なものづくりを標榜し
より豊かなアウトドアライフを提案し、新しい自転車文化・釣り文化を創造する
価値創造企業であり続けるため、いっそう努力を続けてまいります。

本報告書が、当社の志をご理解いただく一助となれば幸いです。

株式会社シマノ
代表取締役社長
島野 容三

企業価値の向上を目指して

—— ころ躍る製品を

当社の事業活動の基本は、「ころ躍る製品」を社会に提供することです。使いやすく快適に走行できる自転車部品、テクノロジーと感性が融合した釣具はもとより、ウェアやシューズなど、それぞれの世界をより楽しく演出する製品をお届けすること。そして自然とともに楽しむサイクリング、フィッシングの素晴らしさをお伝えすることで、お客様により豊かなライフスタイルを提案していきたいと考えています。

自転車部品事業

■ ロードスポーツの基本性能を備えた「TIAGRA」

新しく生まれかわった「TIAGRA」シリーズは上位モデルの先進技術を継承。ハンドルから手を離さず思い通りの変速操作ができるデュアルコントロールレバーをはじめ、正確でシャープなギアチェンジを実現する変速機など、ストレスの少ない高機能システムが、エントリーレベルのライダーにも快適なライディングを提供します。



■ MTB 電動変速システム「XTR Di2モデル」

ロードモデルですでに実績のあるDi2デジタルプラットフォームを通して、マウンテンバイク (MTB) の最上級コンポーネンツ「XTR」に相応しい電動変速システムとして結晶。シフターひとつで前後変速機を操作し、最適なギアポジションをチョイスするなど、革新的な変速を実現しています。



■ MTBコンポーネンツの新たなスタンダード「DEORE XT」

大自然の中で思う存分ライディングを楽しむMTB。過酷な条件であるからこそ真価を発揮する性能が要求され、そこに技術の歴史も形づくられてきました。

多様なニーズに応える「Rider Tuned」コンセプトのもと、MTBコンポーネンツの「DEORE XT」がモデルチェンジしました。最新のテクノロジーを投入したリア11スピードドライブトレイン (ダイナシス11) がMTBファンの冒険心を大きく高めます。



釣具事業

■ iF Design Awardを「STELLA」が受賞

全世界の工業製品などを対象に、優れたデザインを選定するドイツの「iF Design Award 2015」において、シマノのスピニングリール最高峰「STELLA」が受賞をしました。この賞では、デザインとしての形状や表面処理の美しさはもちろん、製品の背景や、新たな開発・製造的な技術革新までが審査基準となります。シマノリールの設計思想「HAGANE」コンセプトのもとにつくり上げられ、企画・デザイン・開発・製造が、その技術の粋を集めた成果です。



シマノのスピニングリールの最高峰 STELLA (写真は2500S)

■ ICAST 2015 においてBest of Showを受賞

世界最大級の釣具ショー「ICAST (アイキャスト)」が、7月にアメリカ・フロリダ州オーランドで開催されました。毎年、新製品を24カテゴリーに分け、最優秀製品に贈られる「Best of Show」が発表されます。2015年度は270企業889製品がエントリーし、シマノは3つの製品がBest of Showに輝きました。



Freshwater Reel 部門 STRADIC C3000HG-K



Freshwater Rod 部門 E6X Bass



Line 部門 Maxcuatro (PowerPro)



シマノ自転車通勤制度

電車のラッシュや交通渋滞などに関係なく、健康にも良いことから、自転車通勤をする人が増えています。自転車コンポーネンツメーカーでもある当社では、自転車通勤を積極的にサポートしています。

■ 気持ちよく仕事ができることを考えた設備

本社新工場とともに建設した厚生棟 Team Shimano Square (TSS) 1階には、自転車通勤者のために約550台が収容できる駐輪場が整っています。浴場をはじめシャワーブース、ロッカールームを完備。また、コンプレッサー式空気入れや共用工具も備え、メンテナンスしやすい環境になっています。

自動車1台分のスペースに13台の自転車が収まる駐輪場

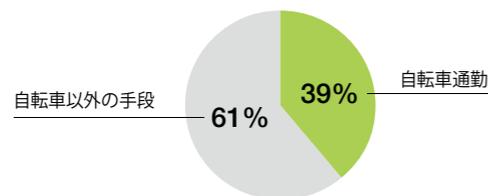


■ 約4割の社員が自転車通勤

1,161名中448名(2015年11月末現在、本社正社員・契約社員)が自転車通勤登録しています。

自転車通勤制度は申告制が原則ですが、申告外の社員でも駐輪場等各設備を利用することができます。

社員の自転車通勤の割合



■ 自転車通勤手当の支給

自転車通勤を奨励するため、ヘルメット着用者には月5,000円、ヘルメット非着用者には月2,600円の手当を支給しています。

■ 自転車及びヘルメット購入補助金の支給

通勤用の自転車及びヘルメットの購入代金に応じて一定の補助金を支給しています。

男子用大浴場



女子用シャワーブース



通勤時、自転車や衣類についた雨水や汚れを飛ばすエアコンプレッサー



シマノを支えるひとづくり

シマノアカデミー '13年スタート

シマノアカデミーは全ヨーロッパの管理職や若手リーダー、新社員を対象にした教育プログラムです。個人、チーム、またはビジネスの成長を促し、シマノの強みをさらに強化するものです。社員のキャリアアップに繋げる効果的なプログラムとして役立っています。



Global 新入社員研修

新たに加わった社員に対して、当社の歴史や企業理念を理解してもらう新入社員教育を行っています。チームシマノの一員として全世界共通の理念のもと、考え、行動するために、講義に加え自転車実走や釣りの体験も含んだカリキュラムを実施。2015年は、シマノ昆山でも新入社員研修を行いました。



EU 視野を広げる講習 '12年スタート

毎年シマノヨーロッパでは、「Inspirience® Workshop」と呼ばれる講習を社員に対して行っています。毎回、専門の講師を招待し、プレゼンテーションを行ってもらっています。

※ InspirationとExperienceを合わせた造語



シマノデイ '14年スタート

シマノ天津は、大学との交流を持つことを目的とした「シマノデイ」を開催しました。



生命と安全の推進

シマノ連雲港では、社員に対し、ライフプランニング及び安全な旅行に関する講習を行いました。



ロウイング体験イベント

自社製品を展開するロウイングの楽しさを社員に知ってもらおうと、大阪府高石市にある潜艇センターで体験イベントを行いました。



サイクリングイベント(シマノフィリピン)



シマノフィリピンは、社員を対象にした約25kmのサイクリングイベントを開催しました。

消防訓練

シマノアメリカンでは、セーフティトレーニングの一環として、消防訓練を行いました。



喜びの高揚

—— 人々に楽しみと喜びを提供する

「こころ躍る製品」それは人々に自転車・釣りの楽しさを満喫していただくものに他なりません。
そして、その楽しさをより多くの人々に伝え、その機会を提供していくことも、当社の重要な活動のひとつです。
当社が開催や協賛している様々な自転車・釣りのイベントは、人々の楽しみのある場であるとともに、交流の場となるものとして大切にしています。
今回は、第25回大会となった「シマノ・バイカーズフェスティバル」をご紹介します。



大地を駆ける、自転車の祭典 「シマノ・バイカーズフェスティバル」

自然あふれる信州を舞台に繰り広げられる、日本最大級のマウンテンバイクイベント「シマノ・バイカーズフェスティバル」。2015年7月25日(土)・26日(日)の2日間にわたって、長野県・富士見パノラマリゾートをメイン会場に開催されました。

大会は第25回を迎え、迫力のオフロードレースやバラエティ豊かなツーリングメニューがさらに充実。老若男女、ビギナーからベテランまで、延べ2千人以上のサイクルファンが一緒になってマウンテンバイクを心ゆくまで楽しみました。

■ 参加者に合わせて選べる「オフロードレース」

山地のオフロードを駆け巡るマウンテンバイク (MTB) は、1970年代後半にアメリカで生まれたといわれています。1980年代になると世界的にMTBブームが訪れ、日本でも盛んになりました。

そうした背景の中、1991年に「シマノ・バイカーズフェスティバル」の前身である「シマノ・リエックス クロスカントリー」がスタートしました。

第25回大会は、メイン会場の富士見パノラマリゾートに設けた特設コースを舞台に様々なレースが繰り広げられました。

初心者を対象にした新登場の「ビギナークロスカントリー」、チームで交代しながら周回数を競う「エンデューロ」、力量に合わせてマイペースで走行できる「クロスカントリーマラソン」、小学生限定の「キッズクロスカントリー」など、参加者のレベルに合わせて種目が選べるのが特長です。

また、一気に駆け下りるダウンヒル系の種目もバイカーズの人気種目。チーム一丸となってコースを走る「チームダウンヒル」や、クロスカントリーの要素を組み入れた「ダウンヒルエンデューロ」など多彩な種目構成となっています。毎年改善に努め、多くの皆様に楽しむ機会の提供という本来の趣旨に沿ったレース構成としています。



■ バリエティ豊富なツーリングメニュー

「シマノ・バイカーズフェスティバル」のもう一つの特長といえば、バリエティ豊かなツーリングメニューです。信州の大自然に包まれながらマイペースで走るツーリングから、コース途中の区間順位を競うコンペティション形式のツーリングまで、幅広いメニューをご用意しました。

ツーリングビギナーも安心のガイド付きツアーや、ゴンドラやシャトルバスで移動する「イイとこどり」のワンウェイコース、ご当地グルメやお宝探しを楽しめるコース、そして新登場の「バイクロゲイニング[※]」など、魅力たっぷりのツーリングメニューから選択。また、MTBはもちろん、ロードバイクやクロスバイク、小径車で参加できるオンロードを主としたツーリングもご用意しました。

どこまでも参加者の視点に立った大会運営で、第25回大会もまた多くの方々に自転車の楽しさをお伝えできたものと思っております。

※エリア内に点在するチェックポイントを、時間内により多く集めた人が上位になるというツーリング。



大会公式 Facebook

シマノ・バイカーズフェスティバルではフェイスブックで多くのサイクルファンの皆様に最新の情報をお届けしています。



■ 自転車と暮らしの情報ツール「Cyclingood」

● '13年スタート

「自転車と一緒に健康的で豊かな暮らし」を一人でも多くの方に知っていただくことを目的として、「Cyclingood (サイクリンググッド)」を発信しています。「自転車と健康」の関係について大学と共同研究、その結果を掲載するなど様々な情報を社会に向けて発信し、自転車文化高揚に役立ちたいと考えています。



フリー情報誌「Cyclingood」

ウェブサイト「Cyclingood Web」

■ 自転車博物館 サイクルセンターの運営協力

● '92年スタート

本社のある堺市に1992年に開館した自転車博物館サイクルセンター（運営：公益財団法人シマノ・サイクル開発センター）。国内で唯一の自転車専門の登録博物館として、自転車が発明された1818年のドライジーネ（レプリカ）からオリンピック出場選手が使用した最新の自転車まで、約300台を保有。自転車の展示だけでなく、自転車のあるライフスタイルを提案するための各種イベントや講習など、様々な活動を行っています。



アクセス：JR阪和線「百舌鳥」駅から徒歩10分
〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-2 Phone：072-243-3196

■ SHIMANO Cycling World

● '14年スタート

2014年9月、「自転車文化の発展」「ライフスタイルとしての自転車の推進」「東南アジアにおけるシマノブランドの浸透」を目的として、シンガポールにオープンした体験型展示施設SHIMANO Cycling World。来場者の皆様に、自転車を通じてより豊かなライフスタイルを提案しています。サイクリングコースやメンテナンスに関するワークショップなど多彩なイベントも開催され、2015年の来場者は43,899名を記録しました。



SHIMANO Cycling World



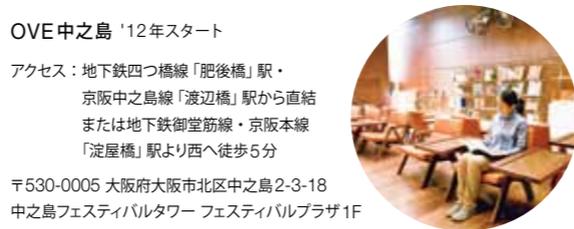
OVE 南青山

アクセス：東京メトロ銀座線・半蔵門線「表参道」駅または「外苑前」駅から徒歩8分
〒107-0062 東京都港区南青山3-4-8
KDXレジデンス南青山1F
Phone：03-5785-0403

■ LIFE CREATION SPACE OVE (オーブ)

● '06年スタート

OVEは新しい自転車文化の発信基地としての活動をしています。行き先を決めて走るのではなく、ちょっと目線を変えてその道のりを愉しむ。そんな散歩感覚で、気ままに自転車を走らせる「OVE散走」をはじめ、イベントやライブラリーを通じ、ゆったりと豊かに自転車に乗っていただくための様々なサイクルスタイルの提案を行っています。



OVE 中之島 '12年スタート

アクセス：地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅・京阪中之島線「渡辺橋」駅から徒歩直結または地下鉄御堂筋線・京阪本線「淀屋橋」駅より西へ徒歩5分
〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島2-3-18
中之島フェスティバルタワー フェスティバルプラザ1F
Phone：06-6223-2626

■ シマノレーシング

● '73年スタート

1973年発足の「シマノレーシング」。製品開発へのフィードバックとともに、何よりも大事にしているのが日本のサイクルスポーツの発展拡大です。近年は「世界トップレベルで活躍する選手育成」という目標を掲げ、2020年東京オリンピックで活躍できる選手の育成を目指しています。



■ その他の活動

イベントの主催・協賛

世界各地で自転車や釣りのイベントを開催し、また協賛しています。日本をはじめとするアジア各地や、新興国ブラジルにおいても自転車や釣りの楽しみ方を提供する活動を展開しています。

自転車イベント (主催/協賛)

- (中国) '11年スタート
SHIMANO Biker's Festival (深圳) ①
約1,100名が参加
- (中国) '07年スタート
SHIMANO Biker's Festival (北京) ②
約2,400名が参加
- (中国) '10年スタート
Shop-in-shop レーシング (南京) ③
約400名が参加
- (中国) '10年スタート
ジャイアント・シマノカップレース (ハルビン) ④
約500名が参加

- (ブラジル) '10年スタート
シマノ・フェスト2015 ⑩
2010年にブラジルでスタートしたシマノ・フェスト。第1回の来場者が約1,700名だったのに対し、2015年、初開催のサンパウロでは2日間で延べ約15,000人が来場。中南米トップレーサーの走りの臨場感を味わえるショートトラックレースや約60ブランドの関連商品展示、バンド演奏などの催しを行い、自転車・釣りの楽しさ、興味を高める機会を提供しました。



- (日本) '84年スタート
シマノ鈴鹿ロード ⑨
シマノが主催する日本最大級のスポーツサイクルイベント「シマノ鈴鹿ロード」に、2015年8月22日、23日の2日間で延べ約12,000人が参加。当社の社員86名がスタッフを務め、大会を支えました。

テクニカルサポートの派遣

トップレベルのプロレースだけでなく、世界各地のサイクルスポーツイベントにサポートカーとスタッフを派遣。参加者の皆様に安全に楽しんでいただくことを第一にテクニカルサポートを行っています。



- (中国) '10年スタート
Tour of China (中国) ⑤
- (中国) '05年スタート
Tour of Qinghai Lake (中国) ⑥
- (中国) '06年スタート
Tour Hainan (中国) ⑦
- (中国) '12年スタート
Tour of Zhoushan Island (中国) ⑧

釣りイベント (主催)

- (日本) '84年スタート
ジャパンカップ
長期的視点で釣り文化の創造に取り組んできたことで、生涯を通して楽しむことのできるスポーツとしても普及し、多くの釣り愛好家が育っています。これからも釣り文化のさらなる発展を願い、活動を続けてまいります。



- (中国) '14年スタート
シマノ上海釣り大会 (昆山)
約150名が参加



利用環境の改善と保全

—— 自然環境、生活環境、製品利用環境の改善と保全への協力

地球環境——それはアウトドア・スポーツを楽しむためのフィールドです。

その保全のためにたゆまぬ努力を続けることは、当社にとって当然であり、基本的な命題です。

製造過程において最大限環境負荷を抑えるため、様々な設備改善・革新につねに取り組むとともに、

海岸や河川といったフィールドの清掃や環境保全活動にも積極的に参加しています。

今回は、当社の拠点で展開している植林活動をメインにご紹介します。



2015年の植林活動

 シンガポール独立50周年事業に参加

シマノシンガポールは、社会活動の一環として「Clean & Green Singapore」と独立50周年記念の大植樹活動に参加しました。シンガポール東部のChangi Beach Parkに50本の植樹をしました。参加者のほとんどは植樹が初めてでしたが、国立公園委員会の方の指導のもと、1時間半ほどで完了。持ち前のチームワークを発揮し、迅速かつ熱心な仕事ぶりに、委員会の方も感心された様子でした。中国に「前人栽樹，后人乘涼」という諺（ことわざ）があります。「先人が苦勞して創り上げたものが、後人に幸福をもたらす」という意味のこの言葉は、まさにこの活動の意義を表しています。この50本の苗木が、たくましく、大きく育ってくれることを願っています。



写真はイメージです

 **マングローブの植林活動** '15年スタート

シマノコンポーネンツマレーシアは、2015年5月7日にマングローブの植林活動を行い、合計約100人のチームシマノメンバーが参加しました。このマングローブの植林活動は、アジアのメインランドの最南端であるジョホールのマレーシア国立公園で行われ、400本のマングローブが植樹されました。



 **ミリオンツリープロジェクト** '09年スタート

シマノ昆山、シマノ天津の社員が、2009年以来、モンゴル砂漠地帯に100万本の木を植える「ミリオンツリープロジェクト」に参加しています。2015年も引き続き、シマノとして2,000本の木を寄贈。緑の広がりを願い、積極的に育成作業を積み重ねています。



 **省エネの取り組み** '11年スタート

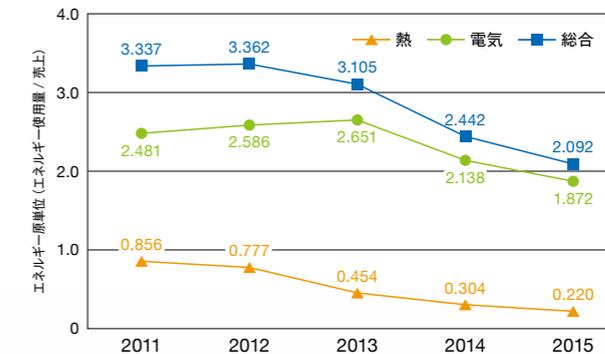
当社では、2011年度より始まった本社工場の建て替え工事に際し、エネルギー使用の効率化を図る省エネを推進させるために「省エネ推進部会」を設置、活動を続けています。

省エネ推進部会では、エネルギー管理システムの導入による見える化（工場全体／生産部門別エネルギーの見える化、建築付帯／生産設備別エネルギーの見える化）を図るとともに、原単位ベースのエネルギー削減に取り組んでいます。また省エネ推進は、本社工場とともに下関工場でも展開、2015年度通期のエネルギー原単位（電気・熱）の改善において、本社工場で前年比14.3%、下関工場で13.4%の削減を達成しています。

<本社工場>

2013年度以降エネルギー原単位は改善が継続
前年比 14.3%削減

- 2013年度の新工場本格稼働後はエネルギー原単位が大きく改善しています。これは、新工場で生産効率が向上したことによるものです。2015年は2011年比で37%削減しています。



<下関工場>

2015年度エネルギー原単位は改善
前年比 13.4%削減

- 2013年度以降、エネルギー原単位が増加していましたが、2015年度は生産効率化により、前年比13.4%削減しています。



本社工場がCASBEE 堺 建築環境賞を受賞

環境配慮に優れた建築物の建築主や設計者を表彰する「CASBEE 堺 建築環境賞」を、堺市にある本社工場が受賞しました。高断熱熱線反射ガラスの採用、高効率設備の導入、屋上緑化などの環境負荷低減が評価されました。



当社では、環境負荷の低い製品づくりを行うための指針として「シマノグリーンプラン (SGP)」を策定し、協力会社と協働してその順守に取り組んでいます。

■ 新たな法規制への対応

SGPは当社製品を構成する原材料・部品・製品に含まれる化学物質の規制値を明確にし、協力会社にも周知徹底することで、より環境負荷・健康負荷の少ない製品と安心を世界中のお客様にお届けすることを目的とした調達基準です。年々厳しくなる法規制に加え顧客や市場の要求を受け、2015年度も改訂を行うとともに、シマノ自主基準を再検討し、法規制対応の効率化を図りました。

■ リスクに応じた活動

2004年にスタートしたSGP。現在ではその順守性は大きく向上してきました。同時に、製品含有化学物質の管理上、リスクが高く重点的に管理する必要がある材料・部品が明確になってきました。

2015年度の活動では、そうした情勢を踏まえ、SGP8版の根本的な見直し作業を行い、改訂点を明確化しました。次のSGP9版(2016年春発行予定)では、規制物質リストを自転車部品/釣具/ロウイング用製品とアパレル用品関連製品の2つに分冊し、よりわかりやすいものとなります。

また、協力会社において含有化学物質の管理状況を確認し、改善するための「セルフチェックシート」も見直し、より正確で高度なものへと改訂します。こうした活動においては、ただ基準の順守を要請するだけでなく、必要な情報を相互に提供する協力関係を通じて、サプライチェーン全体で環境負荷低減に向けた取り組みを行っています。

■ ロードマップ Stage2からStage3へ

ここ数年間は順守性を向上させシマノ製品の信頼性を高めるための活動へと発展させてきました。今後は、SGP9版の発行・運用によってStage3へとステップアップしていき、製品の付加価値ならびに企業価値を高めていくことを目指します。SGPコミティを中心としたグローバルな活動を推進しながら、本社工場と海外工場・販社とが情報共有できる「SGP NEWS」を発行するなど、ともに社会に貢献する良きパートナーとして協力会社と一体となってお客様に信頼される製品づくりを推し進めてまいります。



各拠点のSGP担当メンバー



有害物質が含まれていないか成分分析を確認します



身近な環境に対する取り組み

アースデイ活動 '12年スタート

4月のアースデイ(地球の日)を記念し、シマノ天津(中国)の社員が工場および周辺道路の清掃を行いました。



河川清掃

フィリピン最大の湖ラグナ湖に注ぐサンファン川は、近年の急速な産業発展に伴い、水質汚染が深刻な問題となっています。2015年11月24日、この近隣にあるシマノフィリピンは、周辺企業や住民とともに清掃活動を行い、約700kgのゴミを除去。



大和川ヨシ刈り

2015年2月14日、堺市と大阪市の境を流れる大和川にて、「大和川ヨシ刈りとクリーンアップ活動」が実施されました。シマノからは約40名がボランティアとして参加し、約300kgのヨシの刈り取りと、約560kgのゴミを回収。刈り取ったヨシは堆肥やヨシ紙として利用されました。



環境教育への協力 '06年スタート

本社所在地である堺市の小学校にシマノ社員が訪問し、環境教育のサポートを行っています。2015年は、2月24日に市内を流れる石津川水系で刈り取られたヨシによるハガキの紙漉き授業を行いました。このような活動を通して、幼少期からの環境教育をサポートしています。



せんなん里海クリーンアップ '02年スタート

2015年10月17日、大阪府のせんなん里海公園にて、ゴミの調査も兼ねたクリーンアップ活動を行いました。今年はシマノから約80名が参加し、約90kgのゴミを拾いました。



河川浄化への取り組み '11年スタート

シマノラテンアメリカは、南米最大の都市サンパウロを流れるピニエイロス川の汚染浄化を訴求する自転車ツアーを呼びかけました。また、2015年12月9日に河川の環境問題に関するディベートをサンパウロで開催。NGO、政府・業界関係者やメディアから約30名が参加し、有意義なディスカッションが行われました。



環境負荷低減への取り組み

ウォータートリートメント '97年スタート

シマノ昆山(中国)では水資源を保護するために、工場排水の浄化施設を備えています。



騒音監視 '99年スタート

シマノ昆山(中国)工場周辺の住宅地域における騒音による影響を抑え、さらに職場環境の向上を目指すために、工場内の騒音を監視するシステムを構築しています。



ISO50001取得

シマノシンガポールは、環境保護を目的としてエネルギー保全に取り組み、エネルギー管理システムを導入。2015年11月26日にISO50001の認証を獲得しました。



世界環境デイを開催

シマノトルコは、様々なパートナー達と共に「世界環境デイ」を開催。イスタンブールでは約7,000人のサイクリストがBosphorus橋を横切る19kmの道のりを走り、環境保全をアピール。イズミルでは約250人のサイクリストが海岸のゴミ集めを行いました。



信頼の構築

—— 地域社会に企業市民として参加し協働する

地域社会とのコミュニケーションを密にし、
企業市民として共存・共栄を図ることは、当社の理想とする企業姿勢です。
日本はもとより、世界各地に拠点を置く地域社会の一員として、
地域と一体となって取り組める活動を積極的に行っています。
今回はシマノチェコ (SHIMANO CZECH REPUBLIC S.R.O.)
の活動を中心にご紹介します。



地域社会とともに シマノチェコの活動

チェコの首都プラハの東約400kmに位置するカルヴィナにあるシマノチェコ。

2008年地元の関係官庁へ寄付したのをきっかけに、企業市民として地道な活動を続けています。2015年度は、とくに子供たちを対象にした自転車の安全な乗り方の教育支援活動に力を注ぎました。

■ 2008年～ 地元の関係官庁への寄付

地元の施設消防団、市警察などの関係官庁に対し、装備の充実や育成に役立ててもらおうと、寄付を行っています。

■ 2009年 洪水被害の支援

2009年6月、チェコ南部の集中豪雨によって起こった洪水被害に対して、生活必需品や、成人用おむつなどを寄付しました。

■ 2011年 オープンデイの開催

地元であるカルヴィナ産業地区にある近隣企業と共に、地域の方に会社を理解していただくために開放する「オープンデイ2011」を開催しました。

■ 2012年 献血センターへの寄付

献血活動に関わる支援として、献血センターに寄付を行いました。

■ 2012年 アニマルセラピーへの支援

自閉症や運動障がいのある児童のために働けるよう、馬に対して特別なトレーニングを行うための寄付を行いました。

■ 2012年 養護学校への支援

障がいを持つ子供たちの知育玩具や学用品の購入に役立てていただくための寄付を行いました。

■ 2012年 ドッグシェルターへの支援

ドッグシェルターに保護されている犬のために、ドッグフードやブランケット、おもちゃなどを寄付しました。



■ 2014年 高齢者の自転車旅行を支援

高齢者の移動を支援し、ともに楽しいひとときを過ごすことを目的に、地元カルヴィナ周辺のサイクリングツアーに協力しました。高齢者グループ約90名が参加。旅の締めくくりにはシマノチェコの会社紹介と工場見学を行い、昼食を提供しました。



■ 2014年、2015年

子供たちに路上の危険性を注意喚起

路上で起こり得る危険な出来事を知らせることを目的として、保育所と幼稚園の子供たちが参加する絵画コンテストを開催。受賞者には賞品が贈呈され、最優秀賞の作品は会社のショールームに展示されました。



■ 2014年、2015年

子供たちへの自転車交通安全教育を支援

子供たちが安全な自転車の乗り方を理解し、交通規則や応急処置を学ぶことを目的とした運輸省安全課主催のイベントを支援。優秀な成績を取った子供たちに賞を授与するため寄付を行いました。



■ 2015年 自転車文化を高める活動をサポート

健康増進、社員同士の交流、そして町の環境を考え、自転車通勤を奨励し、自転車文化を高める活動をサポートしました。

■ 2015年 地元の学校への寄付

地元カルヴィナにあるテクニカルスクールの記念日に寄付を行い、また自社を生徒たちに紹介しました。



■ 2015年 クリスマスイベントへの協力

地元のクリスマスイベントに対し、サポートを行いました。



安全で楽しい自転車利用を目指して

🇨🇦 ロードサインプロジェクト '14年スタート

シマノカナダのあるPeterborough市はサイクリングに適した環境で知られています。地元環境局と協働し300kmにわたる道路に160基の標識を立てライダーがより安心して走れるようにしました。



🇸🇬 自転車空気入れステーションを設置 '15年スタート

シマノシンガポールは、交通安全公園内に自転車用の空気入れを設置しました。すべてのライダーが手軽に利用できるようになっています。



🇸🇬 子供たちの自転車を整備 '12年スタート

シマノシンガポールは社会貢献の一環として、子供たちがトラブルなく自転車で乗れるよう交通安全公園にある自転車の整備を行いました。



🇸🇬 学生たちの自転車ライドを支援 '11年スタート

シマノシンガポールは、学生たちが自転車の安全な利用とサイクリングを通して自然と親しむことを奨励する自転車ライドを開催しました。



子供たちの教育支援

🇦🇷 子供博物館に自転車とヘルメットを寄贈 '15年スタート

シマノアルゼンチンは、ブエノスアイレスの子供博物館に対して、子供たちに自転車の文化を学んでもらえるよう、自転車とヘルメットを寄贈・展示しました。



🇨🇳 大学生・職業訓練生に奨学金を支給 '14年スタート

シマノ天津は、優れた学業成績、活発な社会活動への参加、素質と能力において高い可能性が認められた天津大学と天津職業訓練校の20名に対し、奨学金を支給しました。



企業市民として

🇯🇵 自転車ロードレースへの協力 '82年スタート

日本最大級の自転車ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン (TOJ)」に、当社から審判員や地元の堺ステージでは自主警備員等として、社員を派遣し、開催に協力しています。この地元の自転車ロードレースへの協力は、TOJの前身である国際ロードレースの第1回大会 (1982年) より行っています。



🇪🇺 スポーツライフ基金 '10年スタート

シマノベネルクスは、生命にかかわる疾患を持つ人々をサポートするオランダの財団法人「Topsports for Life」に対し、パートナーとして様々な支援を行っています。



🇳🇱 地元企業の雇用を促進 '01年スタート

シマノヨーロッパはオランダのヌンスピートにある地元企業と、長年にわたって密接に連携、協力しています。労働市場で不利な立場の人たちに、安全で信頼できる労働環境における管理業務 (庭のメンテナンス、昼食の提供、製品の再包装等) の雇用を提供しました。



🇺🇸 学生や消防士を支援

G.Loomisは、学生をサポートする「Lelooska Educational Program」や地元の消防士に対し支援を行ないました。



🇮🇩 イベントを通じて孤児に募金を寄付 '15年スタート

シマノバタムでは、「Buka Puasa Akbar」(一緒に断食を終わらしましょう) というイベントをスタッフとその家族で開催しました。今回のテーマは「孤児とスタッフのふれあい」で、スタッフと労働組合からの募金を孤児に寄付しました。



🇨🇳 身体障がい者を支援 '15年スタート

シマノ連雲港では、地元の障がい者の人たちに対して、ハウスクリーニングなどの支援を行いました。



🇨🇳 養老院を訪問 '15年スタート

シマノ連雲港は、地元の養老院を訪れ、清掃や散髪の手助けをしました。

🇨🇳 養老院への贈り物 '09年スタート

シマノ昆山の社員が年長者への敬意を表し、重陽節の前に昆山ボランティア協会とともに養老院を訪問し、贈り物を届けました。



スポンサーシップ

🇩🇪 パラサイクリングチームをスポンサー支援 '15年スタート

パールイズミヨーロッパは、UCI 上位のドイツのパラサイクリングチームの2015年シーズンのスポンサーとして、約30名の選手に主要なアパレルを提供しました。



義援活動

🇺🇸 Trek100チャリティライド

シマノアメリカンでは、小児がんや血液疾患の研究団体 (MACC) とTrek100のBob Burns氏が協働する活動に寄付を行いました。

🇳🇱 Sportive 4 Kids財団への寄付

シマノヨーロッパは、Sportive 4 Kids財団に対して50,000ユーロ (約735万円相当) の寄付を行いました。同財団は、チャリティライドやスピードスケートツアーなどのスポーツイベントを通じて、募金を集めています。



🇨🇳 チャリティイベント支援 '15年スタート

シマノ台湾は、「Wheel 4 Life」というチャリティイベントをサポートしました。このイベントは、交通手段のない過疎地に住む人々に対して、自転車を無料で提供するという活動を行っています。



🇪🇺 入院児童の訪問支援への寄付 '14年スタート

シマノベネルクスは30以上のサイクリングイベントで無料の技術サポートを行い、寄付金5,000ユーロ (約73万5千円相当) を調達。オランダにあるクリニックラウン財団に寄付することで、小児医療施設で過ごす子供たちの笑顔を育む活動を支援しました。



🇲🇾 献血活動を実施 '10年スタート

シマノコンポーネンツマレーシアは、ジョホールの国立病院と赤十字社の協力の下、献血活動を行い、330人以上の社員の協力によって280袋分の血液を集めることができました。



🇯🇵 団体献血を実施 '81年スタート

シマノ本社では毎年、社会貢献の一環として団体献血を実施しています。2015年は68名の社員が献血に協力しました。



🇵🇱 ハンドバイクを寄付

シマノポーランドは、大きな事故で右足を失い、手がうまく動かせない男性に、彼の奮闘や小さな克服の積み重ねに敬服して支援を決定。日々の仕事に戻れることを願って、特別に設計されたハンドバイクを寄付しました。



社会活動報告書を読んで

2015年は原油価格安、中国経済の低迷、欧州の難民移民の流入や金融不安など、不確実な動きがあったものの、グローバルにビジネス展開するチームシマノ^{*}は着実な業績をあげた。今回の社会活動報告書によって、経済活動と共に共有価値の創造に取り組むシマノの企業姿勢を見ることが出来る。本報告書は社会活動を4つのジャンルに分け、その中の1つの項目をフォーカスして、ビジュアル誌面でわかりやすく訴求した。シマノの社会活動のシンボルとして、緑の大地、青い大空、濃紺の大海原を示す三色ラインを表紙に用いたのもコンセプトの象徴表現として効果的である。



自転車用部品「TIAGRA」や「XTR Di2 モデル」では、ライダーが思い通りに変速操作できる装置を実現したが、これらは優れた製造技術をシマノが持っているからなのは勿論である。だが釣具事業のスピニングリール「STELLA」でも、「HAGANE」設計思想と技術だけでなく、ユーザーの要望を聞き、時には助言をもらって共に改良、開発する「ユーザー・イノベーション」を実践しているからではないだろうか。例えばシマノを愛するユーザー同士がリアルやネット・コミュニティで交流し、様々な改良への情報を交換しあって製品を進化させていく。そのような創発的スタイルが、最高峰のヒット商品を継続的に生み出したキーフクターかもしれない。

また企業価値向上を担う本社社員の約4割が自転車通勤というのは驚きだが、自転車通勤手当や自転車、ヘルメットの購入補助金の支給など、様々なサポートを制度化しているのは先駆的試みとして評価されるべきことであろう。世界各地で社員に対する多様な研修、講習、クラブ活動を行なっているのは「ひとつづくり」への本気度を感じる。

「シマノ・バイカーズフェスティバル」は日本最大級のサイクル・イベントとして、7月の2日間信州を舞台に、オフロードレースやツーリングメニューなど、老若男女、初心者からベテランまで幅広いファンがエンジョイできる場と機会、すなわち人々に楽しみと喜びを提供するものといえる。他にも国内外で多様な情報をハイブリッドメディアで発信し、自転車博物館の運営協力、レーシングチームの選手育成、シンガポールの体験型展示施設「シマノサイクリングワールド」などでイベント企画を実施しており、喜びの高揚を実践している。

さらに地球環境はアウトドア・スポーツを楽しむためのフィールドと位置づけ、製造過程での環境負荷抑制、設備改善などに取り組むと共に、環境保全の活動もしている。特にシンガポールでは独立50周年記念の植林事業に参加した。長期にわたり、エコロジーに貢献でき、現地の人々と一層絆を深めることができるだろう。また省エネについても推進部会を設置して活動を続け、本社工場の前年比14.3%、下関工場13.4%の削減率を達成しているのは十分な実績と言えよう。年々厳しくなる法規制に対し、すでに2004年から調達基準としての「シマノグリーンプラン(SGP)」を作成、実施してきたが、次のSGP9版(2016年春発行予定)では、取引先が順守性を確認できるセルフ・チェックシートを見直し、相互に情報の共有化を図り、Stage 3へステップアップさせるなど改善姿勢が窺える。できれば近年切迫しているとされる巨大地震や集中豪雨など、防災体制との関連についての説明があるとさらによかったのではないかと感じる。

企業市民として世界各地で地域社会への信頼構築の活動をしている中、今回は特にシマノチェコの活動に焦点を当てた。2008年よりプラハから約400kmに位置するカルヴィナを拠点とし、地元の関係官庁に寄付、その後洪水被害の支援、会社のオープンデイ、献血センターへの寄付、高齢者の自転車旅行支援、子供たちの自転車交通安全教育を支援するなど、きめ細かく活動しており、地元での信頼も高めているものと思われる。東欧圏地域での取り組みは、将来に向け日本企業にとって有望な市場であり、共存共栄の社会実現のためにも評価したい。もちろん他の国々でも同様であるが、主として子供たちへの支援活動は特に大切であり、意義深い。

本報告書では4つのジャンルで焦点化された活動を中心に、社会との共有価値の創造が進められていることを知ることができた。但しこの創造のベースには企業とユーザー、社員、地域の人々などとの信頼関係がベースにあり、その「創発的」交流があったからできたことであろう。「シマノ・ブランド・コミュニティ」に関わる多様なステークホルダーとの相互作用から、予期せぬアイデア発想と企画が生み出され、その「創発的」成果を経営やビジネスの計画・戦略に組み込むことがシマノの共有価値創造路線をさらに確かなものにしていくのではないだろうか。

※チームシマノ：各国・各地域に広がる連結対象子会社を含む当社従業員の総称

千葉商科大学/大学院教授 一般社団法人 日本経営管理学会代表理事・副会長 藤江 俊彦

チームシマノ基本理念

本当によいものを世界の人々にお届けしたい——。
それは創業者から受け継がれてきた私たちシマノの基本的な願いです。
そして世界各国のスタッフから成るチームシマノは、
共通の理念のもと、共通の目的と共通のプロセスで活動を展開しています。

会社の使命

人と自然のふれあいの中で、
新しい価値を創造し、
健康とよろこびに貢献する。

【経営の方針】

- お客様に信頼され、満足していただけるサービスと製品を提供する。
- 企業価値を高め、開かれた経営を約束する。
- 達成感と、よろこびを分かち合える、公正でいきいきとした職場づくりに努める。
- 社会の一員として環境を大切にし、共に繁栄することを目指す。

【チームシマノの行動指針】

- 豊かな創造性をはぐくみ、たえず自己を啓発する。
- つねに技術の向上に努め、夢の実現に挑戦する。
- 大きく発想し、機敏な行動で着実に実行する。

SHIMANO

株式会社シマノ

〒590-8577 堺市堺区老松町3丁77番地

広報部 広報課

Phone: 072-223-3957

Fax : 072-223-6045

2016年3月15日発行 ©2016 by SHIMANO INC. Printed in Japan XBC IDM K-032